

栄養教諭が実施した ICTを活用した授業

神奈川県立保健福祉大学
鈴木志保子

この資料は、無断でのコピーや配布を禁じます

この事例について

武庫川女子大学 藤本勇二先生がコーディネーターされ、沖縄と北海道の栄養教諭が連携して2022年4月に実施した「沖縄の渡嘉敷と北海道の利尻という離れた地域の子どもたちが、ICTと学校給食を通して距離を超えた交流を持った授業例」です。

題材は、「昆布ロード」です。

この発表は、藤本先生、玉城恵子栄養教諭（沖縄県）、小笠原有沙栄養教諭（北海道）のご協力をいただきました。



昆布ロード×ICT

藤本先生の交流学习の着想

(3)協働学習

「教育の情報化に関する手引(令和元年12月)」

④学校の壁を越えた学習(C4)

インターネットを活用し、遠隔地や海外の学校、学校外の専門家等との意見交換や情報発信などを行う。

テレビ会議等により学校外の専門家と交流して、通常では体験できない専門的な内容を聞く。



食×ICT(玉城先生と藤本の先行実践)

昆布ロードを授業に載せたい

宗谷地区の研修会で小笠原先生に出会う

昆布ロードをテーマに北海道と沖縄をzoomで結ぶ授業

県産和牛について食品ロスを削減する方法を話し合う。

畜産農家の方とビデオ通話での対話を通して、思いを伝える。

玉城恵子栄養教諭

昆布ロード×ICT



玉城恵子栄養教諭: 渡嘉敷村立阿波連小学校

事前学習
沖縄県阿波連小学校



玉城恵子栄養教諭：渡嘉敷村立阿波連小学校

北海道
道産玉ねぎのかき揚げ丼、大豆とわかめのサラダ、
どさんこ汁(昆布だし)、りんご



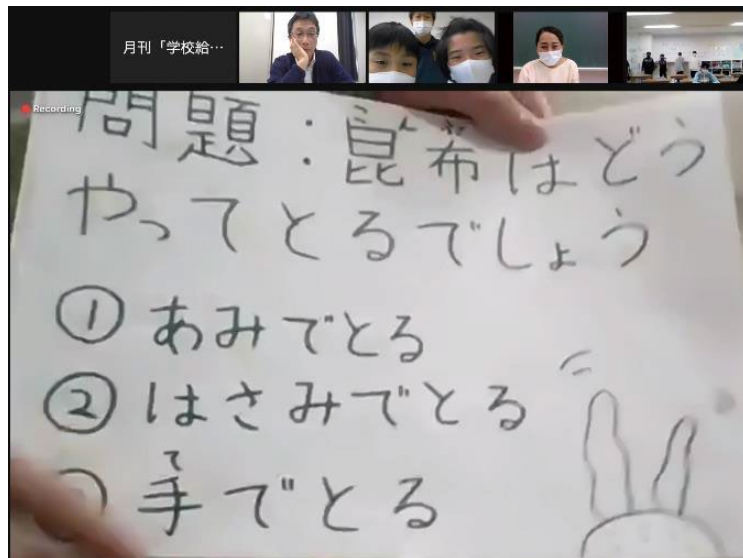
事前学習
北海道利尻小学校



琉球料理
クーブジュシー、にんじんしりしり、サターアングギー



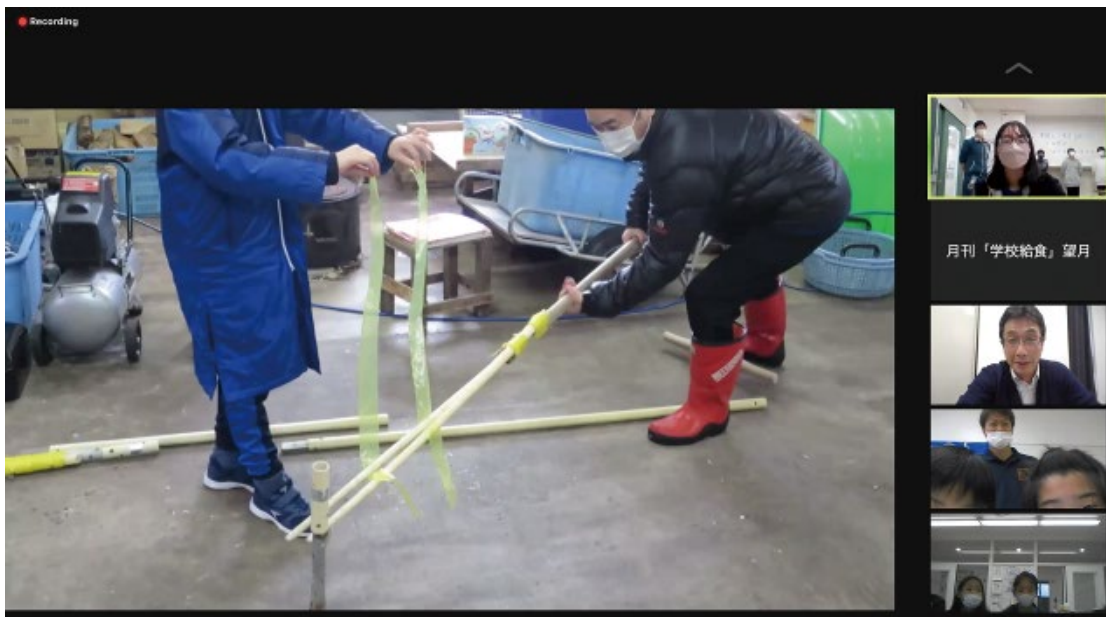
肉汁
豚肩ロース肉、大根、人参、小松菜、結び昆布、料理酒、醤油、塩、かつおだし、豚ガラスープ



当日の学習 北海道利尻小学校⇒沖縄県阿波連小学校



2-1. 昆布がどのように栽培されているか予想、その様子を知る。



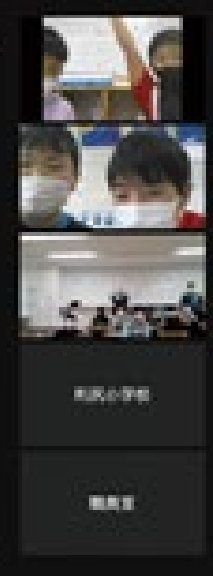
2-2. 昆布の栽培、収穫の様子を紹介する。

3-1. 昆布がどのように
食べられているかを
予想し、その様子を知る。

問題

クーブイリチーのイリチーとは
何のことでしょうか？

- ① かまぼこ
- ② いため物
- ③ 昆布



3-2. どんなふうに食べているか説明する。

月曜の給食献立

・旧暦12月29日 おおみそか



ソーキ汁(結び昆布)

火曜の給食献立

・旧暦1月1日 旧正月



クーブイリチー(昆布の炒め煮)

当日の学習
北海道利尻小学校

4-1.玉城先生から利尻小の児童へ昆布ロードを踏まえた献立の話伝える。

4-2.阿波連小学校の児童の説明や玉城先生の話聞いて考えたことを発表する。

おいしい

軽い

乾燥さめ腐りに

体にいい (ミネラル 食物繊維)

かさばらない

保存が楽



当日の学習
沖縄県阿波連小学校

5-1.小笠原先生から阿波連小の児童へ利尻にとっての昆布の大切さを伝える。

5-2.利尻小学校の児童の説明や小笠原先生の話聞いて、考えたことを発表する。

昆布の生産額 

8億5269万6000円

利尻昆布は
利尻の人にとって大きな収入源であり
豊かに暮らすために、大切なもの

藤本先生の振り返り

- 昆布への興味の高まり、知りたいことができたこと、大切だと思ふ気持ちの高まりが確認できた。また、地域にある食べ物や昔から食べられている食べ物が大切だと思ふ気持ちの高まりも確認できた。小学校の食文化継承のねらいである食文化への理解を高めることができたと判断する。
- 和食文化をテーマとした学校間の交流学習は、児童・生徒の学習を深め、伝統的な文化の継承に大きな意味がある。栄養教諭が関わることによって学校給食の献立として地域の食文化を取り入れた献立を提供することができる。遠く離れた交流校との距離を縮めるために肉汁やどさんこ汁が大きな役割を果たしていた。食べる体験が実感や手ごたえとして学習を深めることに大きく貢献することが確認できた。
- 交流学習を実現させたのは、これまでの栄養教諭の学校での実践の積み重ねと日常的なコミュニケーションがあったからである。
- 今回の事例の2つの小学校はいずれも児童数が少ない。2つの小学校のように小規模でかつ離島の環境にある児童・生徒にとって、交流学習は大きな意義を持つことが確認できたが、中規模・大規模の小学校において食文化をテーマとした交流学習が成立するか、またそのための手立てはどのようなものがあるかということを検討していく必要がある。
- 今後、昆布ロードの寄港地をつなぐ交流学習やそれを実現するための連携のあり方も検討していきたい。

栄養教諭のICTの活用

授業面

1. 時間、場所、人材、経費によって阻まれていた授業が、ICTを活用することにより、可能となる。国内だけではなく、海外とつなぐこともできる。
2. 栄養教諭が主体的に動くことが必須である。
3. 動くためには、企画力、運営力、調整力、コミュニケーション力、授業力など、さまざまな総合的な能力が必要である。
4. 具体的に展開していくためには、栄養教諭の企画・運営をサポートするプラットフォームが必要だと考える。

栄養管理業務面

1. 栄養管理業務は、ICTの活用が有効である。
2. 例えば、リモートシステムを導入し、個別的相談指導を実施したり、栄養教諭が学校にいなくとも給食指導や教室のラウンドを行ったりできる。
3. リモートシステムを導入には、栄養教諭の実行力、調整力、コミュニケーション力などが必要である。

給食管理業務面

1. 栄養教諭が行う給食管理業務の明確化により、効率化できる部分が鮮明になり、効率化の方法を模索し実行することで、栄養管理業務の時間を確保できる。
2. 効率化するための方法として、ICTの活用は有効である。(管理栄養士としての専門性を発揮する。)
3. 現状を改善したいという思いと改善するために、総合的な能力・実力が必要である。

